博士前期課程 体育実践学学位プログラム
養成する人材とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関係

養成する人材

体育スポーツに関する専門知識ならびに体育スポーツ現場への幅広い視野を有し、体育スポーツの高度な指導力を有する指導者・高度職業人・学術的実践者を養成する。

例

- 高度な指導能力を有する中学校・高等学校教諭、養護教諭
- スポーツマネジメントに係わる高度職業人
- 体育・健康・スポーツに関する基礎的知識をもった高度職業人、ジャーナリストなど

ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学した上で、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、「実践課題学期小論文」の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体育実践学）の学位を授与する。

- 体育学に関する幅広い学識と研究基礎力
- 体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての高度な専門的知識
- 体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての実践力
- 国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

カリキュラム・ポリシー

①体育学研究科共通科目（必修 10単位）
体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。

②基礎科目（選択必修 6単位）
スポーツマネジメントコースあるいは身体教育・健康教育学コースの学識と専門的知識、研究法を学び、基礎的能力を身につける

③展開科目（選択 10単位以上）
体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはスポーツマネジメント、身体教育・健康教育学に関するより高度な知識や能力を身につける（縦の発展）。

④研究指導科目（必修 4単位）
上述した科目を履修するとともに、修士論文に代えて、指導現場における政策や実践に関する報告等を「実践課題学期小論文」としてまとめて発表し、審査を受けるとともに、学会や学術誌への発表方法などについても学ぶ。なお、「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の審査は原則として、Ⅰは1年次後期、Ⅱは2年次前期、Ⅲは2年次後期の学期末に行う。

授業以外の活動

学内発表会
国内外の学会発表
実験
調査
計測
データ分析
勉強会とセミナー
共同研究
体育スポーツ指導
他大学連携事業
TA(ティーチングアシスタント)
情報機器の操作